

ヒューマンネットワークの大切さを！！

～あの東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）をきっかけに～

特定非営利活動法人美咲町柵原星の里スポレク倶楽部（岡山県）

理事長 表田実典

はじめに

新年あけましておめでとうございます。

関係者の皆さまには、輝かしい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東北地方太平洋沖地震は、日本の観測史上、最大のマグニチュード9.0を記録し、東北地方、関東地方において、大規模な地震と、過去に例のない大津波によって、大変多くの方が被災されております。お亡くなりになれた方々に、深く哀悼の意を表し、また、被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を願うものであります。*(当クラブの支援活動声明より引用)*

東日本大震災

震災当日、平成23年3月11日(金)、職場では午後3時の休憩時間が終わりかけた頃でした。テレビニュースを見た同僚が「東北のほうで大きな地震があり、大津波の被害が出ているようだ」と大声で教えてくれたのを、今でも鮮明に覚えています。すぐに自分の机に戻りインターネットをつないだら、画面一杯に凄まじい状況を目にしました。脳裏に映ったのは東北地方の友人達の顔でした。「皆、大丈夫なんだろうか？」不安と心配がよぎりました。

間もなくするといろいろな情報が入りはじめ、午後5時に退勤しクラブの事務局に向かいました。到着後、テレビのスイッチを入れ被害の状況や津波の恐ろしさを知りました。慌てて片っ端から友人に電話を入れました。栃木・福島・千葉・山梨・北海道・他。「電話が繋がらない!!」夕方から夜に掛けて何とかつながり、友人の安否は確認でき、まずは一安心。電話やメールで被害状況の確認を進めて行きました。

並行してクラブスタッフと相談し「東北地方太平洋沖地震支援対策本部」を立ち上げ、情報収集に当たりました。日本体育協会公認クラブマネジャーの仲間(クラブマネジャー養成講習会で知り合ったクラスメイト)からも情報を集めました。「今、必要な物」を、クラブや地域で支援物資として募り、また近隣のクラブにも呼びかけました。数日すると義援金・支援金の声を耳にするようになりましたが、クラブの判断としては「お金」より今は、「必要な物」と……その方向で展開して行きました。

クラブマネジャー仲間のネットワーク

3月下旬、福島のクラスメイトから1本の電話が入り「助けて!SOS」の一報を受けました。その内容は「水・手袋・マスク」の3点を至急、送って欲しいとのことでした。「私の地域(街)には全国から支援物資が届き食料は十分にありますが、被災している奥地へ出向きクラブの仲間や住民と一緒に支援をするのに、必要な物なんです」。私は心を打たれました。自分も被災している身なのに……。私からの答えは、もちろん「分かりました。全国の仲間に協力してもらいます」。そこから北は北海道、南は沖縄の仲間(クラスメイト・他)に連絡を取り協力を求めました。数日すると全国から福島へ「必要な物」が届けられ、近隣からは直接、福島へ持ち込まれました。

私たちに何かできないか

実は、私たちの住む地域は、過去に幾度も、岡山県の三大河川の一つでもある「吉井川」（一級河川）の増水による洪水の被害に遭遇している地域です。水量が増えれば高台に避難し、一夜のうちに避難場所を転々とした記憶も脳裏に残っています。全ての物を飲み込んで行く恐ろしい水の音、うねり声を聞きながら長い夜を耐え夜明けを待った、そんな経験をしている地域です。被害の度に幾度となく地域の人達と力を合わせ復興へ、再建へ。こんな過去を秘めていました。東日本大震災と比較にならない被害でしたが、私たちの地域は、そこから学び、そこから経験し、変事の時には「力を合わせ、できること」を、いつも思っていました。

生の声を!!

テレビや新聞の報道では、わからないこと。

大震災からしばらくすると、津波で家を流された方や原発の警戒区域等からで避難された方々の避難所に、身体が自由でもなかなか外に出られない中高齢者の方々や子ども達がいきました。「碁・将棋・オセロ・かるた・などを提供したい」「少しでも癒しにならないか?」の声にも応えるため、県内外のクラブ関係者の皆さんや地元の地域に呼びかけた結果、たくさんの気持ちが込められた物資が集まりました。

クラブ間の声を大切にしたい気持ちで一杯でした。被災地で現場目線で携わっている方の声を中継し、ネットワークを使いきる限りのことを進めて参りました。そのネットワークを通じ必要とされる「スニーカー・化粧水・乳液・ハンドクリーム・UVクリーム・リップクリーム等の女性用のアイテム等々」の情報も入り、できる限りの対応をさせていただきました。仮設住宅に関しては、その後も「癒しのオアシス」プロジェクト(発起人:宮崎県半九レインボークラブの澤山さん)の主旨に賛同し、当クラブも「鯉のぼりプロジェクト」(詳細は、以下)を実施・協力しました。

被災地の子どもたちのために 全国の鯉のぼりが津波のない大空に舞いました!!



スポレク柘原では、全国の総合型スポーツクラブの連携による「あなたにも出来ることがきっとある...プロジェクト」の一環として、ご家庭で使用していない「鯉のぼり」を募集しました。その結果、「鯉のぼり」12セット、約60匹が集められ、宮崎県から全国をまわるキャラバン隊へ手渡され福島市近郊に無事到着、4月22日、大空の海に「鯉のぼり」を掲げることが出来ました。ご協力頂いたみなさま、ありがとうございました。



先日、総合型地域スポーツクラブ被災地支援プロジェクトマネージャーの半澤さんから次のようなメールが届きました。

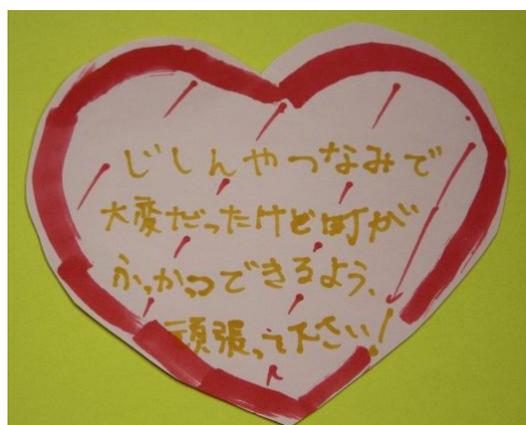
仮設住宅の方は、高齢者の方が多く、前の見えない現状に復興どころか後ろ向きでしかない状況にあります。そして、日々何にも興味を示さず、外に出てこないことに福島「かつらおスポーツクラブ」の中島さんは悩んでおられました。中島さん自身も先の見えないことに不安やストレスを感じていました。そんな中の鯉のぼり作戦はひと時でも皆さんの心に癒しをもたらしてくれたそうです。鯉のぼりの設置に住宅の皆さん自ら手伝いに来てくれたのが大きな一歩、そして今は桜も咲いてみんな外に出て、桜と鯉のぼりの下でお話をされているようです。そして、なによりあの鯉のぼりが、被災者の子どもたち

をはじめ、みなさんが外に出るきっかけになった事や、手伝いをしてくれたその行動が「うれしい」のひとことです。私たちの満足だけに終わってはいけませんが。。。鯉のぼりを集める声をかけていただいた全国のみなさんと鯉のぼりを出して下さったみなさんに感謝です。「ほんとうにありがとうございます」25日に中島さんから電話があり「この鯉のぼりこそ、心のごちそうだよ！みんな外に出てくるんだよ～」っと嬉しそうに伝えてくれました。とにかく私たちが思っていた以上に「癒し」になっているし、前向きに行動するきっかけになっているようです。(略文)



プロジェクト「あなたにも、できることがきっとある・・・」

「1つのともしびを被災地へ届けよう——あなたにもできることがきっとある……」を合言葉に平成23年10月1日(土)、柵原ふれあい鉱山公園で開催されたキャンドルチャリティコンサートは、約1,800人もの方々がつめかけました。キャンドルの輝きと音楽を通じて、被災地に笑顔とぬくもりを届けたイベントになりました。



みんなの思い、届け・・・

キャンドルチャリティコンサート開催

このキャンドルチャリティコンサート(テーマ:絆)は、多くの方の地域交流の場となりました。また、幻想的な5,000個のキャンドルの灯りと透き通った歌声は、被災地に向け元気を届けられたと思います。



福島からNPO法人エフ・スポーツ半澤由美子さん(当時クラブマネジャー)が来町され、被災地の状況、今、被災地が必要としているものなど報告していただきました。

さいごに・・・

近い将来、被災された方々に夢を抱かせられることを信じ、当クラブは、全ての事業活動にさらに積極的に挑み、そして力強く展開し支援活動の一環に結びつけたいと考えております。

引き続き、全国のクラブ関係者の皆さんとヒューマンネットワークを強化し、変事の際に「今、できること」を追求して参りたいと思います。私達の小さな小さな願いを全国に展開していきたいです。**がんばれ東北**